

令和6年度第2回恵那市子ども・子育て会議 会議録

日 時：令和6年10月17日（木）

午後7時～午後8時40分

場 所：恵那市共同福祉会館

-
1. 開会
 2. あいさつ
 3. 議題
恵那市子ども計画素案について
 4. 閉会
-

■出席委員

坪井弥榮子、石田しず江、西尾綾介、駒宮博男、安田和枝、横井喜彦、片山三咲、
渡邊みちる、可児由紀子、市川伸美、藤野貴子

■欠席委員

杉山淳、松井満数、紀岡伸征、林千秋、立尾清二、堀尾憲慈、蜂谷明子、中川春花、佐々潤子、

1. 開会

■事務局：これより令和6年度第2回恵那市子ども・子育て会議を開会します。

本会議の成立は、恵那市子ども・子育て会議条例の規定により過半数の出席が必要となっております。20名中出席者は11名であり、過半数以上の出席がありますので、本会議が成立していることを報告いたします。

本日も恵那市子ども計画の策定委託をしております株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所様にお越しいただいておりますのでよろしくお願いたします。

会議の公開に関する要綱に基づき、原則公開としています。会議録についても公表しますので、よろしくお願いたします。会議の終了は概ね20時30分を予定しています。

それでは委員長よりごあいさつをお願いたします。

2. あいさつ

■委員長：皆さまこんばんは。仕事でお疲れのところ、本会議にご出席いただきありがとうございます。現在、恵那市では、市政20周年記念に合わせて、地域自治区会長会議で募集し応募があった4つの地域（三郷町、竹並町、中野方町、上矢作町）の公園の整備を行っており、10月20日(日)までに完成する予定です。子ども子育てアンケートをとった時には、「公園がほしい」という意見が多くありました。三郷町の公園は自宅の近くにあり、夕方になると子どもの賑やかな声が聞こえてきて大変よい環境だと思っています。

本日は、前回の会議で皆さまからいただいた意見を事務局でまとめて素案を作っていました。事務局からの説明の後、委員の皆さまよりご意見をいただきますので、よろしくお願いたします。

■事務局：ではこれより委員長の進行により会議を進めていただきますので、よろしくお願いたします。

3. 議題

(1) 恵那市子ども計画素案について

■委員長：それでは議題に入ります。議題（1）恵那市子ども計画素案について、事務局から説明をお願いします。

[事務局から資料に基づき説明]

■委員長：ありがとうございました。ただいま説明がありましたが、この内容について何かご意見ありませんでしょうか。

■委員：20ページ（6）子ども食堂・学習支援の状況に、「みんなで子育てドロップス」が入っていません。「みんなで子育てドロップス」を入れていただき「6か所」に修正をお願いします。

■事務局：そのように修正します。

■委員長：よろしくお願いたします。

■委員：3歳以上児給食費無償化は大変嬉しいです。57ページの乳児等通園支援事業（子ども誰でも通園制度）の数値目標についてですが、令和8年から完全実施ということですが、令和8年

度は何か所なのですか。令和7年度に一部実施の予定はありますか。また、77ページ①量の見込みは、令和8年度310となっていますが、どのような算出方法ですか。

■事務局：57ページの乳児等通園支援事業の令和8年度の目標値についてですが、今のところ3～4か所ほどを考えています。令和7年度に試行的に取り組んでから本格実施に向けて進めていきたいと思っています。

■事務局：77ページの見込み量についてですが、こども誰でも支援制度が0歳6か月から2歳までの未就園児が対象となります。恵那市で出生する見込みの方から実際に園に申し込みがあり、こども園等に通うこどもを除いた残りのこどもが、すべてこの制度を利用されると仮定をした見込み量で算出をしています。

■委員：では、可能性がある量ということですか。

■事務局：そうです。可能性がある方全員を想定しています。

■委員：実施する園は決定しているのですか。園に入っていない3歳未満児が入ってくるのですが、園の体制や環境整備、設備等は大丈夫ですか。

■事務局：令和8年度から実施するという事で準備をしていますが、まだ実施する園は決定していません。今後協議をしながら決定していくという段階です。

また、園の体制や環境整備についてですが、これは国がやる制度なので配置基準等は定まっています。その分の人件費等も国から下りるので配置基準に見合った保育士を配置します。現在いる保育士だけではできないと思っていますので、新たにこども誰でも通園制度向けの保育士の新たな雇用が必要であると考えています。

■委員：大学でも保育士確保に向けて具体的に動いていく予定です。11月には関係会や学生との交流会も計画しております。私たちもあずかっている学生に地元で働いてもらうことを目標としておりますので、頑張っていきます。

■委員長：先ほどご意見があった57ページのこども誰でも通園制度は、課長からは2～3園ということでしたが、0か所からいきなり10か所というのではなく、令和8年度の数値も入れてもらいたいです。

■委員：47ページなのですが、私は青少年育成市民会議に参加しており、13町の町民会議の運営委員長が集まる会議がありました。そこで、本会議に持って行ってほしいという意見があったので伝えさせていただきます。クラブが地域クラブに移行していくということで、中学生のこどもを持つ親は非常に不安に感じています。中津や恵那の地域クラブが全国大会に出たという話もありますが、地域クラブは送迎する親がいる子しか入れないという話でした。都会と違い指導者も少ない中で、地域クラブに移行するということを非常に不安に思っている親が多くいます。子育てというところでいえば、小さい子のことだけではなく、中学生がどのように地域で過ごしていくかということも含めて考えていただきたいです。地域に投げられているだけで、指導者も自分たちでボランティアを探さなければならず、指導者がいなければ遠くまでいかないといけない、そのためには送迎をしなくてはならず、結果参加できない、というのが現状です。そのあたりをもう少し取り上げていただきたいです。

■事務局：地域クラブについては、委員のご意見のとおり課題が満載なのですが、現在、校長会に協力いただいて、どのように運営していくかという素案を作っています。どのように解決していくかはもう少し待ってください。

■委員：地域にすべて投げるのではなく、市でもバックアップ体制を作っていただきたいというのが、運営委員長と皆さまのご意見でした。そのあたりの意見もふまえて、中学生も輝けるようなまちづくりをお願いしたいです。

■委員長：こどもが主体なのですが、親が心配しないようなものにしていただきたいです。今までは、学校で部活をやってバスで送ってくれるというのがあったのですが、今後はそのようなことがないので、恵那西中学校区だと授業が終わったら部活をしないで一度帰宅するのですか。

■事務局：一度家に帰ってから地域クラブに行くことになります。

■委員長：野球も帰宅するのですか。

■事務局：すべて一度帰宅します。

■副委員長：近所に住む野球好きな小学6年生の子に中学校に入ったら野球をやるのかと聞いたら、「恵那と中津しかない。恵那なら自分が自転車で通えるけど、中津になったら親に送ってもらわないといけない。親に迷惑がかかるので迷っている。」と言っていました。そのようなこどもの声もあるので考えてほしいです。

■委員長：三郷町から恵那まで自転車で通うとなるとすごく大変です。町に近い人だけができるということではなく、全体のこどもができるような形で考えていただきたいです。

■委員：今の地域クラブの話ですが、先日、幼稚園の保護者と話しているときに、自分の世代の時は部活を自分で選ぶことができたのですが、そういったことが今後できないとなると、親がその子の可能性をどうやって見い出してあげたらよいのかと不安に感じるということでした。例えば、企業の体育館の中にブースを作ったり、小さいこどもの習い事などの紹介の場があると、小さいときから情報得ることができるので嬉しいとおっしゃっていました。

先ほど、委員長のあいさつにもあった三郷町の公園を見に行きました。SNSで公園が新しくなったということを知ったので早速行きました。素敵な遊具やきれいなトイレがあり、大きいこども向けの遊具もあるので、秋の遠足で利用したいです。

■委員：77ページの親子関係形成支援事業というのは初めて知り、このような事業があるのはよいと思いました。保育園に通われている保護者の方や、保育園で親子関係で悩んでいる職員も参加できたり、お互いに情報提供をしながらやっていける関係性ができたらよいと思いました。

■事務局：これは国が進める事業のひとつとして、来年度から各市町村で始まる事業です。初めて子育てする家庭や育てにくいこどもがいる家庭で悩んでいるお母さんに向けてこの事業を進めていきます。今後、職員向けも検討したいと思います。

■委員：68ページの待機児童数は0人となっていますが、隠れた待機児童がいるかもしれないので心配です。小規模の学童保育所は運営が大変なのが現状です。補助金も少なく、こどもの利用も少なく、指導員にそれなりの給料を出すということも難しい状況なので、そういったところにも支援をお願いしたいと思います。

■事務局：待機児童は0人で継続してやっていきたいと思っています。支援員の確保が難しいということを聞いているので、市としてもしっかりと支援していく体制をとって、支援員の声を聞きながら協力してやっていきたいと思っています。

■委員：先ほどの地域クラブについては、校長会でも切実な問題として上がっています。素案を作り始めたところなので詳しくはお伝えすることができませんが、本日出た意見を校長会で伝えて、こどもたちが安心して部活やいろいろなことに取り組めるように、また、親も安心できるよ

うにしていきたいと思います。

児童クラブについて、本校でも児童クラブがあるのですが、利用が多い時と少ない時があるということでした。利用日数が年間何日ないと成り立たないという規定があり、ニーズに合わせた柔軟なところがあるとよいと思いました。

学校の立場からの意見ですが、32ページのSOSの出し方に関する教育や48ページに教育相談について、今はこどもたちの姿も多様化しています。登校をしづる子も多いですし、集団に適応をすることが難しい子もいます。そのようなこどもが増えていますので、私たち職員も相談にのっていただきたいですし、受け入れる場も充実していくとよいと思います。

■委員：山岡こども園では、一時預かりは親のニーズがあります。母親がリフレッシュしたい、家族の介護が必要となるので預かってほしいといったものです。今は3歳児入園ではなく、未満児から入園してそのまま3歳児に上がるので、3歳から新しく入園する子は少なく、就労されている方が多いと感じています。働く親の助けになり、気持ちよく仕事をできる環境が作れたらと思いつつながら、私たちは仕事をしています。

■委員：104ページのALLえなネウボラ会議の内容についてですが、就学前サービスの具体的な内容の3つ目に「こども園の白いごはん持参をやめて園で炊いてほしい」とあるのですが、山岡こども園は白いご飯を持参しています。市内で白いご飯を持参する園としない園があるのはなぜですか。

■事務局：基本的にはすべての園で白いご米は持参となっております。給食センターだと、白いご米ではないメニューの時は持参しないこともあるのですが、基本的に持参しています。今回、それを解消したいということで取り組みを進めているところです。

■委員：説明のあった将来のこどもの数に関して、これはコーホート変化率法で推計していると記載がありました。コーホート変化率法は、過去5年の状況がずっと継続するというで推計をしています。世の中が変わらなければあまり変化がなく、経済的な指標や将来見込みなどの他の方法より、圧倒的にあたると言われている人口推計です。この推計を使うということは、このまま現状過去5～10年間と同じようにこどもの数は減っていく見込みになってしまうので、単なる統計的な推計によって将来を決めるのではなく、恵那市としてはなんとかこのくらいにする、という目標があり、それを達成するための計画にするべきだと思います。

また、92ページアンケート結果についてですが、昨年度、田舎暮らしの本の中で、人口4～5万人の市の中で恵那市が一番住みやすいと出していたにも関わらず、中高生のアンケートの回答では、「将来、恵那市に住みたい、恵那市で働きたいと思うか」の問いには「どちらもしたいと思わない」の回答が中学生43.3%。高校生68.1%になっています。なぜこのような数値になってしまったのかを我々は知るべきだと思います。94ページ「恵那市の取組において、こども・若者の意見を聞いてもらえていると思うか」の問いの選択肢についてですが、「どちらかといえば聞いてもらえていると思う」は遠慮がちに肯定しており、「あまり聞いてもらえていないと思う」、「まったく聞いてもらえていないと思う」は明らかに否定しています。中学生の回答で、「あまり聞いてもらえていないと思う14.5%」と「まったく聞いてもらえていないと思う4%」で14.9%であり、「聞いてもらえていると思う18.9%」です。高校生の回答は、「聞いてもらえていると思う9.4%」で、「あまり聞いてもらえていないと思う14.8%」と「全く聞いてもらえていないと思う2.8%」は17.6%です。このような数値になってしまう理由を考え、大人がこども

の声に耳を澄ませていかないと、若者は 18 歳になるとかなりの割合で恵那市を出て行ってしまいます。一度出てもよいのですが、戻ってくるということがない限り少子化を解決することはできません。さらに、これは恵那市に住んでいる人だけを対象に考えていますが、都市部には恵那市に住みたい人がたくさんいるので、移住定住対策や少子化対策を考えていかなければならないと思います。

■委員長：アンケートの結果について事務局から何かありますか。

■事務局：子どもたちの意見を聞いていないというのも把握したうえで、24 ページ（1）ライフステージを通した基本目標の基本施策 2 に「子ども・若者の意見反映と活躍推進」とあり、これも基本施策のなかで取り組んでいこうと考えています。その施策として、29 ページ 2 子ども・若者の意見反映と活躍推進の重点目標が書いてあります。30 ページの上の表の取組 3 子ども等の意見を聞く機会の確保ということで、なるべく子どもの声を聞いて、施策に反映していきたいと考えています。

■委員長：私は恵那市の移住定住施策にも関わっているのですが、子育て世代や若い世代が岩村町、山岡町、上矢作町に入ってきています。前回の会議にも話に出ましたが、移住定住や結婚支援といった話はどこかに盛り込まれているのでしょうか。

■事務局：30 ページの取組 5 の子育てにやさしい地域・住まいの拡充の 13 移住定住住推進事業ということで、取り組んでいくということで掲載しています。

■委員：私は 92 ページ 93 ページのアンケート調査結果が大変興味があります。92 ページの場合は「どちらでもしたいと思わない」と大多数の子が回答をしているので、なぜそのように答えたのかヒアリングをする必要があると思います。93 ページの回答結果についても同様です。先月、このデータも含めて、恵那南高校で講義をする場があり、私が話をした高校 3 年生は、高校 2 年生の時にこのアンケートに答えていました。その時、このアンケートについてどう思ったかを聞いてみましたが、そのように直接ヒアリングしてから施策を作っていくことが重要であると思います。

コーホート法についてはいかがですか。

■ジャパン総研：国の手引きによって、子ども子育て支援事業計画の量の見込みを立てるときには、この方法で推計することがのぞましいと言われていました。来年度策定される総合計画のほうでは、希望的観測を加味した数値がでていると思いますが、子育ての量の見込みは正確な数字を出せるよう、この推計を使って計算していきます。

■委員：恵那市のなかでも、地域によっては少しずつ人が増えてきているところもあり、そうでないところもあるように、状況がまったく違います。地域ごとの人口推計も社会保障・人口問題研究所のソフトを使えばできるので、本来は地域ごとに作っていただき、そのデータを地域ごとに提供していくことが重要であると思います。

■委員長：子どもの意見が聞いてもらえるかどうかについては、家庭のことなのか、家族のことなのか、議会のことなのか、というように焦点がわかれていないので、そういったようなことも今後盛り込んでいけると、もう少しここの数字がかわってくるかと思います。

■委員：中学生の子育ての部分では、青少年としては地域クラブのことが一番思いが強いところです。指導者が少なく、企業でスポーツをやっていた人などに市から声をかけてもらえないかという具体的な話も出てきました。恵那に住みたいと思ってくれる子どもたちを育てていくために

も、いろいろな意味での抽出が必要だと思えます。楽しくなければ出ていきたいと思ってしまうと感じています。

■委員：37 ページ要保護児童・DV 防止対策地域協議会の開催の数値目標についてですが、令和5年度は現状値44人となっており、令和11年は目標値40人と数値が下がっていますが、緊急性が高い事例が発生する可能性が低いということでしょうか。要保護児童、特に未就園児の虐待に関しては、親子関係形成事業のようなアウトリーチ型家庭教育支援など、子育て支援のネットワークが重要であると考えており、そのようなものを作っていくことを盛り込んでほしいと思えます。

■事務局：人数が44人から40人に減少しているというのは、事例を早期に把握し、事前に支援に結び付けるといった取り組みを強化することで、支援対象者を減少させていきたいと考えています。例えば、今年度より赤ちゃんが生まれた家庭にベビー用品を届けると同時に、その配達員がその家庭の状況やこどもを育てる上での悩みなどの聞き取りを行うなど、伴奏型の支援を増やしつつ、早期に支援が必要なところを見つけて早めに取り組んでいきたいということで目標値を下げました。

■副委員長：全体的な話ですが、3歳未満児の保育の要望が増えていることを承知していただいているのはありがたいのですが、その反面、みさとこども園は0歳児教室がありません。他の園も、0歳児教室がないところがあるので、今後考えていただきたいです。

66ページ4地域子ども・子育て支援事業の量の見込み、提供体制の確保のなかにいろいろ事業が書いてあるのですが、多胎児をもつ親も子育てが大変です。そのような母親に寄り添えるような、外出時に協力してくださる方をつけていただく等も考えていただけるとありがたいです。

■事務局：多胎児についてですが、恵那市でも今年5人ほど多胎児をもつ方がいらっしゃいました。岐阜県には多胎ネットワークという、多胎児の育児の経験をした人がサポーターになって支援をする団体があります。妊娠期から保健師と一緒にサポートし、赤ちゃん訪問から顔合わせをして、時には健診についてお手伝いもしてくれています。支援が必要な方には紹介させていただきサポートをさせていただいています。

■委員長：それは恵那市にあるのですか。

■事務局：岐阜県にあり、いくつかのグループにわかれて活動しています。恵那地区は東濃支部の方が支援をしてくれています。

■委員長：恵那市にあるといいですね。

本日は委員の皆さまより素案について多くの意見をいただきました。では、議事の承認を求めたいと思えます。承認の方は拍手をお願いします。

[一同拍手]

承認多数により議事は承認されました。

■事務局：委員の皆さまありがとうございました。本日は素案をご協議いただきましたが、いろいろな方面からご意見を頂けたことは恵那市役所としても財産だと思いますし、それぞれのご意見につきましても、本当にその通りだと思います。

この計画を作るにあたり、どうしても国の動きが遅く、地方自治体が先行してやっていたいかなければならないことが多くあります。中でも人口や見込み量など、まだデータが生ぬるいところもありますが、今後細かな数値を盛り込んでいき、総合計画とも整合性をとりながら、恵那市のオリジ

ナリテイをもったこども計画を作っていきたいと思います。本日は各委員から意見をいただきましたので、加筆、修正、削除をした素案を11月にお示しさせていただきます。

この子ども子育て会議は、恵那市の未来を背負っていく立場の皆さまのご意見だと思います。この会議については私もしっかりと参加をさせていただく、という心構えでいたいと思います。11月の開催もよろしくお祈りします。

■委員長：スムーズな進行をありがとうございました。進行を事務局にお返しします。

■事務局：ありがとうございました。委員の皆さまにおかれましては、貴重な意見をありがとうございました。子ども計画に反映していきますので、今後ともよろしくお祈りします。副委員長より閉会の挨拶をお願いします。

4 閉会

■副委員長：本日はお忙しい中、また大変暑い中、お集まりいただきありがとうございました。20年後を目指して、という子ども子育て会議ですが、20年後に少ないこどもたちではなく大勢のこどもたちが笑顔で地域に戻ってきてくれるような恵那市になるよう、今後も様々な意見をいただきたいと思いますので、よろしくお祈りします。

[閉 会]